山形県地域密着型サービス外部評価結果報告書

＜認知症対応型共同生活介護用＞

評価結果報告書

事業所番号	0691900013
法人名	特定非営利活動法人　あすなろの会
事業所名	グループホーム　あすなろ南陽
訪問調査日	平成　20年　9月　10日
評価確定日	平成　20年　10月　31日
評価機関名	株式会社　福祉工房

地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
Ⅰ．理念に基づく運営	11
1．理念の共有	2
2．地域との支えあい	1
3．理念を実践するための制度の理解と活用	3
4．理念を実践するための体制	3
5．人材の育成と支援	2
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1．一人ひとりの把握	1
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3．多機能性を活かした柔軟な支援	1
4．本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1．その人らしい暮らしの支援	9
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

※自己評価項目番号26　馴染みながらのサービス利用
自己評価項目番号39　事業所の多機能性を活かした支援
については、小規模多機能型居宅介護事業所についてのみ記入

○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

○記入方法

［取り組みの事実］

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

［取り組みを期待したい項目］

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

［取り組みを期待したい内容］

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

○用語の説明

家族等　＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家　族　＝家族に限定しています。

運営者　＝事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員＝　管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム　＝管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

[認知症対応型共同生活介護用]

1. 評価結果概要表

作成日　平成20年10月24日

【評価実施概要】

事業所番号	0691900013		
法人名	特定非営利活動法人　あすなろの会		
事業所名	グループホーム　あすなろ南陽		
所在地 (電話番号)	山形県南陽市宮内2767番地15 (電　話)0238(59)5320		

評価機関名	株式会社　福祉工房		
所在地	宮城県仙台市青葉区国見ケ丘6丁目149		
訪問調査日	平成20年9月10日	評価確定日	平成20年10月31日

【情報提供票より】(平成 20年 7月 31日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成　18年　12月　11日	
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計　18　人
職員数	16　人	常勤　13人，非常勤　2人，常勤換算　6人

(2)建物概要

建物形態	併設／単独(○)	新築(○)／改築
建物構造	木造　造り	
	2 階建ての	1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000　円	その他の経費(月額)	15,000　円
敷　金	有(　円)　無(○)		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有(　円) 無(○)	有りの場合 償却の有無	有／無
食材料費	朝食　300　円	昼食	300　円
	夕食　300　円	おやつ	200　円
	または1日当たり　円		

(4)利用者の概要(平成 20年 7月 31日現在)

利用者人数	17 名	男性	2 名	女性	15 名
要介護1	6　名	要介護2	5　名		
要介護3	3　名	要介護4	2　名		
要介護5	0　名	要支援2	1　名		
年齢　平均	86.8 歳	最低	79 歳	最高	97 歳

(5)協力医療機関

協力医療機関名	公立置賜南陽病院、伊藤歯科医院、板垣医院

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

機能訓練と情緒の安定を図る為、音楽療法の資格を持った職員の指導の下に週1回ミュージックケアを実践しており、利用者も童謡など昔懐かしい音楽を楽しんでいる。事業所の夏祭り等には浴衣を用意し、利用者の好みに合ったものを着てもらうなど、利用者が楽しめる努力をしている。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①

前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)

地域という具体的な言葉は採用していないが、理念の中の”ふれあい”という言葉の中に、その地域の人々や、社会との関係を目指すとの目標を掲げている。自己評価に関しても今回は職員全体で話し合いを持ち、作成しその中から課題を見出すような努力をしている。重度化に関しての対応は、事前に家族との話し合いを行うようにはなってきたものの、統一された指針の作成にまではいたっていない。

今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)

昨年の評価の改善点に関して全員で話し合い、今年の自己評価も職員全員で話し合い、取り組んでいる。

重点項目②

運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4，5，6)

2ヶ月に1回実施している。テーマはその都度設定し改善に関しての話し合いを行っている。又、現在の状況を報告し、出席者から意見を貰うようにしている。

重点項目③

家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7，8)

意見、苦情を受ける窓口に関しては明確にしており、意見があった場合はカンファレンス等で職員に周知し、改善を図っている。

重点項目④

日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)

地元町内会へ加入しており、老人会とはお茶会、踊りなどで、地元の宮内幼稚園とはクリスマス会等を通して交流している。又、地区のお祭りにも参加、来年からは事業所主催のいも煮会を予定している等地域との交流を活発に行うよう努めている。

2.　評 価 結 果 (詳 細)

（ ▢ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅰ．理念に基づく運営					
１．理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	「その人らしさを大切に、ふれあいとうるおいのある生活を目指します」の理念と事業所独自のケア目標を掲げている。”ふれあい”の言葉の中に地域との関係を意識した理念としている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	理念を玄関、事務所に貼り出しており、月1回のカンファレンスで理念について職員に説明、ケアに反映させるようにしている。		
２．地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地元町内会へ加入しており、老人会とはお茶会、踊りなどで、地元の宮内幼稚園とはクリスマス会等を通して交流している。又、地区のお祭りにも参加、来年からは事業所主催のいも煮会を予定している等地域との交流を活発に行うよう努めている。		
３．理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	昨年の評価の改善点に関して全員で話し合い、今年の自己評価も職員全員で話し合い、取り組んでいる。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回実施している。テーマはその都度設定し改善に関しての話し合いを行っている。又、現在の状況を報告し、出席者から意見を貰うようにしている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
6	9	〇市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	自治体からのアンケート調査等を通じて、情報交換を出来る関係を維持しており、相談にものってもらっている。		
4．理念を実践するための体制					
7	14	〇家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	近況報告は担当職員の自筆で施設便り「トライアングル」に月1回送付している。緊急時には電話で連絡しており、面会時にはかかさず報告している。		
8	15	〇運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見、苦情を受ける窓口に関しては明確にしており、意見があった場合はカンファレンス等で職員に周知し、改善を図っている。		
9	18	〇職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの職員による支援が受けられるように配置異動を行い、職員が交代する場合でも、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	引継ぎの為のマニュアル等仕組みは無いが、どの職員も対応できるような取り組みをし、異動による影響が出ないようにしている。		
5．人材の育成と支援					
10	19	〇職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	随時必要な研修には、職員は参加するようにしている。研修後には報告会を行い他の職員に対して伝達研修を行うようにしている。		
11	20	〇同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	山形県グループホーム協議会に入会、又、地域の市部会にも参加し今年度は交換実習に2名参加させている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1．相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	**【小規模多機能型居宅介護のみ】** ○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2．新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	料理の仕方、昔のおやつ作り、風習等を聞き、共感し共に生活していることを感じてもらえるように場面作りや声掛けをしている。		
Ⅲ．その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1．一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	個人の意思を尊重し、利用者が何を望んでいるか等の声掛けや聞き方の努力はしているが、アセスメントが介護の視点に偏っており、思いや意向の把握の視点がやや不足している。	○	最近センター方式を利用し、利用者の意向の把握に努めるように改善をしてきているので、更にこの方向を進めることが望まれる。
2．本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映した介護計画を作成している	入所時家族の思いや意見を聞き介護計画に反映させるようにしている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回見直しを行うと同時に、毎月カンファレンスの中で新たな問題を見つけ見直しを図っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
３．多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
17	39	**【小規模多機能型居宅介護のみ】** 〇事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている			
４．本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
18	43	**〇かかりつけ医の受診支援** 本人及び家族等の希望を大切にし、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	馴染のかかりつけ医への受診を考慮しており、受診時には事業所で作成した受診報告書を持参し、状態の把握、伝達に努めている。		
19	47	**〇重度化や終末期に向けた方針の共有** 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	家族には常に説明をし、又、病状に著しい変化がある場合は家族に伝え、話し合いを持つようにしている。しかし、重度化や終末期をむかえた際の対応が明示されたものは無い。	○	重度化に関しての指針を作成し、入居時にはそれをベースに、利用者、家族と話し合いを持ち、確認し、職員に関しても対応を明確にし、統一の取れた対応をすることが望まれる。
Ⅳ．その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 １．その人らしい暮らしの支援 （1）一人ひとりの尊重					
20	50	**〇プライバシーの確保の徹底** 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員本人も気が付いていない時もあるので、ミーティングの都度言葉遣いについての話をし、都度注意指導している。個人情報保護法に関しての研修も職員に伝達し、記録は利用者の前では行わないようにしている。		
21	52	**〇日々のその人らしい暮らし** 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	本人のスケジュールに合わせたスケジュールを心がけ、思いを引き出すようにしている。職員からの声掛けや働きかけが強くなりがちなので、最近は利用者サイドに立った係わり方を検討している。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（○印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（2）その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	盛り付け、片付け等は職員と一緒に出来るように支援しているが、調理に関しては職員がすべて行っている。	○	家庭生活の延長といった面からも、利用者の能力、希望にあわせ、調理にも参加してもらえるよう取り組むことが望まれる。
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週2回pm2：00～4：00と決めているが、シャワーの希望があれば、臨機応変に対応できるようにしている。利用者の気分や希望によって日程の変更が出来るようにしている。		
（3）その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	畑での作業、料理の盛り付け、下げ膳等、若い時の職業を聞いて、得意な力を発揮できるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日には、連れ添って近くの公園に散歩に行ったり、月1回季節の花祭りにユニット合同で外出している。		
（4）安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら鍵をかけないで安全に過ごせるような工夫に取り組んでいる。	各居室、玄関には施錠はしていない。但し、防犯の為夜19時より朝7時までは施錠をおこなっている。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	防災に対応する職員の体制も作られており、毎年消防署立会いのもと、夜間想定も含めた防災訓練も行われている。又、地域の区長の協力を得られる体制を作っている。		

外部	自己	項　目	取り組みの事実 （実施している内容・実施していない内容）	（〇印）	取り組みを期待したい内容 （すでに取組んでいることも含む）
（5）その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	〇栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	個人個人のご飯、おかずの量を加減しており、水分も必要量摂取されているかチェックしている。又、個人の好みを配慮しバランスの取れた食事を考えている。		
2．その人らしい暮らしを支える生活環境づくり （1）居心地のよい環境づくり					
29	81	〇居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	食堂や廊下に季節の絵や創作物を提示し季節感を出すように工夫している。又、食堂、廊下、ホールの好きな場所でテレビや談話が出来るような配慮がされている。		
30	83	〇居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者本人の使い慣れた物を自由に持ち込めるように入所時に説明して安心して生活できるように配慮がされている。テレビ、椅子、本棚、化粧品ケースなどが居室内に持ち込まれている。		